



# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	1
事業名	文化財保護事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	町内に所在する貴重な文化財の保護・保存に努め、次世代に継承していく。 また、文化財を積極的に活用することによって、学校教育・生涯学習に寄与する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定文化財の保存と普及</li> <li>・ 新規に指定可能な文化財の調査</li> <li>・ 町の歴史に係る調査</li> <li>・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統芸能の継承と普及</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	町内に所在する指定文化財はもちろん、指定していなくても近年急速に失われつつある、郷土の歴史を考える上で貴重な文化遺産について日々調査し、少しでも町民に認知してもらえるようにするため、保護・活用方法を検討しなければならない。 各地区における伝統芸能について、現在継続するのに苦慮している地区もある。発表の場を創出するとともに、次世代へ継承するための方法を模索しなければいけない。		
平成 27 年度 の目標又は 改善策	指定文化財とともに、町内に残る貴重な文化遺産についての調査を進め、新たな知見を得られれば、その成果を町民に還元するなど、普及啓発活動を推進する。 毎年 10 月に開催している伝統芸能発表会と大口北小学校で実施する交流会を引き続き開催し、発表の場を設けるとともに、各地区における伝統芸能の活動状況を窺いながら、次世代へ継承していく方策を実施する。		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
8	文化財の調査及び普及啓発活動 文化財に関するイベント・講演会等の検討。12月頃までに実施。 調査については通年で実施し、さらに文化財に関する認知度を高めるため、文化財マップを活かしたイベント等、啓発活動も検討しながら適宜実施する。
6	伝統芸能の保存・継承 伝統芸能保存会会議内において、各地区の現状等を聞き取り、今後の継承活動に向けて検討。
10	伝統芸能発表会の開催。
11	大口北小学校との交流会。他の小中学校とも条件が整えば実施。

## □3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H25 計画	H25 実績	H26 計画	H27 目標	H28 目標	H29 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28 年度	・ ・
H29 年度	・ ・

## ■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	2, 8 1 3	2, 7 7 0	2, 7 7 0
(内特定財源)		千円	3 0	3 0	3 0
人工	職員	人工	0. 5	0. 5	0. 5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1. 5	1. 5	1. 5

## ■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	3 0	町史、遺跡報告書売払い
合計	3 0	

## ■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

文化財の指定・未指定に関わらず、町内に残る貴重な文化遺産の啓発活動について、昨年度に引き続き、南保育園との連携事業である「郷土を愛する心を育む活動」、中地域自治組織における歴史民俗研究会のアドバイザーに加え、老人クラブ・コミュニティ等、町内外問わず各団体より依頼を受け、地元の文化遺産について座学及び現地解説を開催した。さらに、生涯学習講座では、姉妹都市提携を結んだ松江市と縁のある堀尾吉晴公についての内容で計2回実施した。

伝統芸能について、春の発表の機会である金助桜まつりは雨天中止だったが、秋の発表会は予定通り開催することができた。今年度も町外の伝統芸能団体（江南市・安良棒の手保存会）にゲスト出演していただいた。また、大口北小学校との連携事業「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」を今年度も実施。今年度は授業の単元の都合上、2月の開催となり、当日はかなり寒かったが、各保存会の方々と児童の熱意溢れる交流が印象的であった。

## ■ 評価

町内に残る貴重な文化遺産の啓発活動は、ありがたいことに町内外問わず様々な団体からの依頼を受け、講座・現地解説等開催することができた。今年度は特に、島根県松江市と姉妹都市提携を結んだご縁である堀尾吉晴公をテーマとした依頼が多かった。指定文化財はもちろんのこと、近年急速に失われつつある地元の文化遺産や過去の情報（記憶）を後世に伝えていくためにも、このような啓発活動は今後も継続して推進するとともに、今後町内における歴史をテーマとした啓発活動ができるように、有志による団体を立ち上げていただき、より活発に活動できるような体制づくりが必要であろう。

春の発表会は雨天中止であったが、秋の伝統芸能発表会及び大口北小学校の交流活動は開催することができ、各地区の保存会に対し、モチベーション向上と活気をもたらす機会を創出できた。地区によっては、大口町伝統芸能保存会会議等において保存会の維持等、苦慮しているという話はよく伺うが、今後も上記のような機会を創出し、伝統芸能の継承に努めていきたい。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	2
事業名	歴史民俗資料館運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>先人の培ってきた過去の営みを現在に伝え、郷土「おおぐち」に関する事柄や美術分野の展示により、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の授業やグループ学習、休日の学びの場として、家庭・子どもの教育に貢献する。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年4回の企画展開催</li> <li>・ 常設展示室の管理</li> <li>・ 展示解説及びそれに係る調査研究</li> <li>・ 文化財収蔵庫の管理</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収蔵品の電算登録と管理</li> <li>・ 学校授業での見学受け入れと出前事業</li> <li>・ 博物館実習生の受け入れ（一週間）</li> <li>・ 年報、展示図録等の発行</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>年4回開催している企画展のうち、春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は定例化し、大変好評である。これら2本の企画展を中心に、町民への認知度をさらに深め、積極的に利用してもらう必要がある。</p> <p>文化財収蔵庫は昨年度外壁改修及び内部の防火・防犯機器を新しく設置したため、依頼があれば適宜解放できる状態である。収蔵品も含め全体的な活用を模索しなければならない。また、小中学校との連携についても、資料館・文化財収蔵庫の利用、収蔵品の活用などさらなる連携強化が望まれる。</p>		
平成27年度の目標又は改善策	<p>定例化した2本の企画展は、アンケートで入手した来館者の意見等を参考に、運営の改善を進め、来館者を増やし、かつ円滑な利用をしてもらえるように努める。また、その他2本の企画展は、郷土に根差したもの、家族全員で楽しめるものなど、町民が積極的に利用できるような企画展づくりを推進する。</p> <p>文化財収蔵庫及び収蔵品の活用について、小中学校や高齢者施設、町内各種団体にも利用してもらえるような方法を実施することにより、教育・福祉と連携した活用を推進する。</p>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	春の企画展開催（6月中旬まで）
5	町内の高齢者施設に対し、文化財収蔵庫内見学の提案
6	中学生職場体験 高齢者施設を対象とした文化財収蔵庫見学開始
7	夏の企画展開催（9月中旬まで）
8	博物館学芸員実習の受け入れ、小中学校の夏休み向けイベントの開催
10	秋の企画展開催（12月中旬まで）
11	ふれあいまつりでの文化財収蔵庫一日解放
1	冬の企画展開始（3月中旬まで）、小学校3年生の授業「むかしの道具」で資料館利用 文化財収蔵庫は団体利用依頼があれば適宜解放。小中学校、高齢者施設及び町内団体からテーマ別の見学、収蔵品の利用、出前授業等の依頼があれば実施。

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					
項目（単位）	H25 計画	H25 実績	H26 計画	H27 目標	H28 目標	H29 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H29 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	10,954	14,535	10,571
(内特定財源)		千円	40	40	40
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1.5	1.5	1.5

## ■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	40	図録等売払い、広告収入
合計	40	

## ■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
収蔵庫外壁等改修工事設計	0	△303	平成26年度で事業が完了したため。
収蔵庫外壁等改修工事監理	0	△130	
収蔵庫外壁等改修工事費	0	△3,300	
収蔵庫非常警報設備設置工事費	0	△300	
収蔵庫夜間警備設備取替工事費	0	△378	

## ■特記事項

--



## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

年4回開催する企画展のうち、春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は今年度も継続して開催した。夏の企画展は、昭和30～50年代における身近なおもちゃをテーマに実施。秋の企画展は、非核平和宣言をしてから30年になるため、広島県にある平和記念資料館より被爆資料を借用し、原爆の凄惨さと町における非核平和推進事業を紹介する内容で開催した。

文化財収蔵庫内における所蔵資料の活用については、今年度より大口町社会福祉協議会が主催する「オレンジカフェ・大口」に毎月資料を借用し、参加者に対し回想法の手法を取り入れたレクリエーションを実施していただき、資料の活用における新たな道を切り拓くことができた。「ふれあいまつり」開催中は、文化財収蔵庫を一日開放することにより、収蔵庫内における資料を見学する機会を創出。小学校3年生の授業「むかしの道具」においては、資料館及び収蔵庫の見学、資料の体験等に利用していただいた。

## ■ 評価

春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は、例年どおり大変多くの来館者で賑わったが、冬の企画展の来館者数は微減という結果であった。毎年かなりの来館者で賑わう冬の企画展は今回9年目を迎えたが、マンネリ化せず、さらなるサービス向上、新規来館者の増加が見込めるように努めていきたい。年間来館者数は15,200人と、昨年度より微増した。数値だけみると、平成23年度以降、過去最高の記録を更新し続けているため、この水準を維持・発展できるように資料館の認知度及び利用度を上げていく。

文化財収蔵庫及び収蔵品の活用について、今年度より実施した「オレンジカフェ・大口」での取り組みは、収蔵品をただ保存するのみではなく、町民に対し活用していくという面で非常に効果的であった。借用した資料も年中行事の道具から普段の生活道具等、多岐にわたり活用することができた。次年度以降も積極的に利用していただけるように働きかける。